令和5年度学校評価計画表

奈良県立添上高等学校

学校教育目標 （育成したい資質・能力）	自立した社会人の育成 社会に役立つ仕事ができる　…『誠』 職業観（勤労観）の育成、奉仕の精神の醸成 心身が鍛えられた人材の育成 …『力』 健康観（食育）の育成、諦めない精神力の育成 仲間と共に働くことができる　…『愛』 協働の精神（望ましい人間関係の構築）
本校の使命（スクールミッション）	伝統と新しい息吹を備えた魅力ある学校、「行きたい　行かせたい」と思う学校 〈具体像〉 1 学習と部活動を両立し、生徒一人一人が自己実現、進路実現ができる学校 2 特技や専門分野を伸ばすことができる学校 3 奈良県の体育学習、スポーツ活動の中核となり、教育力を発信できる活力ある学校
教育方針（スクール・ポリシー） 入学者受入に関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校では、入学者選抜を経て、以下のような生徒を受け入れます。 添上高校は、明るい笑い声と元気な挨拶が校舎に響き渡り、活気あふれる学校です。 誠…『素直で、真面目な心』、『世のため、他人のために尽くす心』 力…『諦めない心』、『道を究めるために、努力を怠らない心』 愛…『人を敬う心』、『他人の喜びを、自分の喜びとできる心』 様々な活動を通して、生徒一人一人が自分の夢を見つけ、追いかけ、お互いに夢について語り合い、励まし合って、大きな夢を持ち続け、日々成長することができる学校です。共に成長できるみなさんを待っています。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○ 確かな学力の育成　…授業の質を高め、生徒一人一人に応じた指導方法や評価方法を導入する。 ○ けじめある生活の確立…基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識の向上や遵守する姿勢を醸成する。 ○ 進路希望の実現　…進路補習の充実や効果的な模試の活用により、3年間を見据えたキャリア教育を行い、進路実現を図る。 ○ 特色ある学校づくり　…部活動の活性化やスポーツを通した地域貢献、ICTの活用による学力伸長などを進める。 **【各科・コースの特長】** **〈普通科〉**　：1年次に基礎学力の定着・向上を目指し、2年次以降、文型（幅広く学習し様々な進路に対応）・文理型（進学に重点）を選択。 **〈普通科人文探究コース〉**：動画による学習と授業での探究的な活動により思考力・判断力・表現力を身に付ける。学外実習で実践的な力を育成。 **〈スポーツサイエンス科〉**　：トップアスリート、体育指導者の育成をめざし、指定クラブで継続的な活動と水泳・スキー・野外実習で実践力を育成。
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	未来に「夢と志」をもち、その実現に向けて勇気と剛直な精神で挑む、活力と自信に満ちた生徒を育成する。 〈目指す生徒の具体像〉　1 礼節を重んじ、人間性豊かな「くじけない、諦めない」生徒 2 自ら考え、積極的に仲間と協働することにより、自信と誇りをもつ生徒 3 自己の目標を確立し、達成のための努力を怠らない生徒

〈具体的目標〉	項目	目標値等
1. 心と身体を子どもの成長に合わせて育む	健康教育の充実	健康診断後の受診率や治癒率の向上（8割以上）
		保健室来室者数の減少（前年度比マイナス20%）
	食育の推進	健康な食生活に関するアンケートで、肯定的な回答が90%以上。
	体力の向上と運動習慣の定着	スポーツテストにおいてA判定の生徒SS科で10割、普通科で3割以上を目指す。
		体力測定補助や部活動における校種間連携の実施（総数50回以上）
2. 学ぶ力、考える力、探究する力を育む	主体的・対話的で深い学びの実現	生徒の授業への取り組みに関するアンケートにおいて、肯定的な回答60%以上の教員が半数以上。
		生徒や保護者の授業に関する満足度に関するアンケートで肯定的な回答が90%以上。
		評価の観点を意識した課題や発問について、教科間で授業スキルの研修と共有を行う。
	教職員の資質向上	5年間ですべての教員が研究授業を行い、授業スキルのアップと共有に努める。
		70%以上の教員が教育研究所等が主催する研修会等を受講し、スキルアップに努める。
	魅力と活力あるこれからの高校づくり	奈良県のスポーツ拠点校としての役割を果たす。 各競技団体等と連携した練習会や研修会の開催（年間50回以上）
		科やコースにおける特色ある教育活動に関するアンケートで肯定的な意見が80%以上。
		生徒の可能性を拡げ、自己肯定感を高めるために部活動加入率を90%以上とする。
		スポーツサイエンス科におけるコロナ禍での実習内容や実施方法について検討し、可能な限りの感染対策を講じ、安全・安心な実習の実施する。
		人文探究コースにおけるICTを活用した反転授業や英語4技能の育成など、新しい学びのスタイルを提唱する。
	ICTを活用した教育の推進	ICTの活用による授業満足度に関するアンケートで肯定的な回答が70%以上の教員が半数以上。
	学校における働き方改革	各教職員で定時退校日を設定し、週1日以上の定時退校を行う。
		教職員のストレスチェックにおける[総合健康リスク]を80以下を目指す。
	安全安心な教育環境の整備	毎月の安全点検により、発見された異状箇所の速やかな修復を目指す。
		人間関係（いじめ、友達関係）や教室環境に関するアンケートで肯定的な意見が90%以上。
3. 働く意欲と働く力を育む	キャリア教育・職業教育の推進	進路に関する情報提供に関するアンケートで肯定的な意見が80%以上。
		進路HRを活用してキャリアパスポートを使った効果的なキャリアデザインを指導する。
		インターンシップ（アカデミック・インターンシップを含む）の参加率30%以上。
	社会に役立つ実学教育の推進	進路実現を目指した活動に関するアンケートで肯定的な意見が80%以上。
		定期的な模試の活用と振り返りにより学力の向上を目指す。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	地域との連携・協働推進	学校運営協議会と連携した教育活動の実践。
		天理市の幼稚園・小学校・中学校との連携事業の推進
	地域社会に貢献する人材の育成	ボランティア活動や清掃活動などに関するアンケートで肯定的な意見が70%以上。
	グローバル人材の育成	海外留学や国際交流を促進するための機会の提供を行う。
	社会教育の推進	社会体育に関する研修会や講習会を年間で10回以上開催する。
5. 地域で個性が輝く仕組みをつくる	学校教育における人権教育の推進	新しい「人権教育推進プラン」に沿った人権教育の推進
		いじめや人権に関するアンケートで肯定的な回答が90%以上。
	いじめ・不登校等への対策	「奈良県いじめ防止基本方針」に基づく取組の徹底
		年間2回以上の「いじめアンケート」を行い、いじめの早期発見・早期対応に努める。
		友人関係や相談できる相手に関するアンケートで肯定的な回答が90%以上。
	特別支援教育の推進	SCを有効活用し、生徒の悩み解消に対応する。
		聴覚に障がいをもつ生徒が学校生活で困り感をもつことを少なくするために、インクルーシブ教育を推進し、授業方法の改善や手話講座を定期的に開講する。
		週1回の教育相談部会、月1回の教育相談委員会により支援や配慮を必要とする生徒の情報を共有し、個別の支援計画や個別の指導計画の作成する。
	多文化共生教育の推進	多文化への理解を促すHRを行う。

分掌	項目	具体的方策・評価指標
総務部	魅力と活力あるこれからの学校づくり	進路目標を明確にするとともに部活動の加入率を高め、生徒自身が毎日の学校生活にやりがいを感じるようにする。特色ある教育活動に関するアンケートにおいて、常に肯定的な回答90%以上を目標とする。
		学校のホームページを利用して学校行事やクラブ活動で生徒が積極的に活動している様子を動画等で発信し、ホームページの視聴率を高める。
		特色ある教育活動に関するアンケートにおいて、回答を常に90%以上とするため、安心して学校に通うことが出来る環境づくりを他の分掌と連携して取り組む。また、生徒の進路実現やクラブ活動での目標が達成できるよう支援する。
教務部	主体的・対話的で深い学びの実現	授業方法や評価方法に関する職員研修等を充実させる。 定期考査前等の期間を中心に、苦手意識のある生徒に対して補習等を行うことを推進する。 授業の取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答が90%以上。
	ICTを活用した教育の推進	ICTを活用し、生徒の興味・関心を引く教材が提示できる環境を整える。 スタディサプリ、スタディサプリEnglishの活用を促進する。 ICTの活用による授業満足度に関するアンケートにおいて、肯定的な回答が90%以上。
	社会に役立つ実学教育の推進	総合的な探究の時間等を活用し、課題発見から解決までを自ら考えることを意識した指導を推進する。 進路実現を目指した活動に関するアンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上。
生徒指導部	安全安心な教育環境の整備	安全に関する各種教室（薬物乱用防止教室、防犯教室、交通安全教室、防災訓練、DV教室）を実践し、生徒に危険予測・危機回避能力を身に付けさせるための「安全教育」の充実を図る。人間関係（いじめ、友達関係）や教室環境に関するアンケートにおいて、肯定的な回答90%以上を目指す。
	いじめ・不登校等への対策	「いじめ防止基本方針」の点検・見直しと、「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催する。いじめ問題については、積極的認知に取り組むとともに、年2回以上のアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。人間関係（いじめ、友人関係）や相談できる相手に関するアンケートにおいて、肯定的な回答90%以上を目指す。
教育相談部	特別支援教育の推進	入学前の中学校訪問と生徒本人・保護者等からの生活支援シートを活用することで、生徒理解に努めるとともに全教職員で共通理解を深め、適切な支援を行う。
		SCを有効利用することで生徒の悩み解消に対応する。（年間35日間、140時間）また、生徒アンケートを基にSCと協力して職員研修を開催する。
		週1回の教育相談部会、月1回の教育相談委員会を行うことにより支援や配慮を必要とする生徒の情報を共有し、個別の支援計画や指導計画を作成する。
進路指導部	キャリア教育・職業教育の推進	生徒の適性や希望に応じた進路指導を適切に行い、就職内定率や進学合格率を上げるために、進路HRにおける学習内容の充実や、キャリア・パスポートの活用による振り返りを重視することで、進路に関する情報提供に関するアンケートにおいて、肯定的な回答90%以上を目標とする。 勤労観・職業観を確立するために、職業人講話や応募前企業見学などの体験的な活動に加え、インターンシップ等の職業体験活動を充実させ、進路に関する情報提供に関するアンケートに）の項目において肯定的な回答90%以上を目標とする。
	社会に役立つ実学教育の推進	「インターンシップ」等の体験的な活動を充実させる。 定期的に模試を活用し、振り返りによる学力の向上をめざす。
人権教育部	学校教育における人権教育の推進	新しい「人権教育推進プラン」に沿い、第1学年では人間関係作りの視点を、第2学年では共生の視点を、第3学年では自己実現の視点を重視し、HR展開を行う。展開にあたっては「人権教育のてびき」「なかまとともに」「ひとりひとりの願いを」「フリーダム」等を積極的に活用し、自尊感情の醸成と集団づくりに繋げる。いじめや人権教育に関するアンケートにおいて、肯定的な回答90%以上を目標とする。
	多文化共生教育の推進	全校生徒が人権作文に真摯に向き合い、10月の人権作文発表会では、他者の思いに共感できるよう努める。11月には松本隆博さんを招いての文化鑑賞会を実施。1月には講師を招いて第1学年でチャング体験を実施し、在日外国人問題について取り組む。第2学年では障がい者問題・多様な性について取り組み、命について考えるとともに、部落問題学習にも取り組む。第3学年では進路について取り組み、生きる力について考える。
	いじめ・不登校等への対策	生徒指導部や教育相談部と連携を図ることで生徒の実態把握に努め、状況に応じて教育上の配慮を行う。教育支援の立場から、必要な生徒には奨学金等の案内を行う。
保健体育部	健康教育の充実	県内スポーツ拠点校としての役割を踏まえ、各運動部において、積極的に中学校との交流を実施し、昨年を上回る本校志願者を確保する。
	食育の推進	食育が「生きる上での基本であり、知育、徳育及び体育の基本」となることから、教科横断的に生徒に理解させるとともに家庭とも連携し、健全な食生活を実践できるようにする。健康な食生活に関するアンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上にすると共に、将来、自分で自立した食生活が送れるように、食に関する講演会を実施する。
	体力の向上と運動習慣の定着	生涯スポーツの目的や意義を、保健体育科の各授業でふれる機会を増やし、運動への意識を高めるようにする。また、生徒が主体的に活動できるように授業内容の研究を行うことで運動習慣の定着を狙うとともに、スポーツテストにおいてA判定の生徒をSS科、普通科ともに増加させる。 昨年度のA判定は、SS科58%、普通科7%。
	魅力と活力あるこれからの高校づくり	県内スポーツ拠点校としての役割を踏まえ、各運動部において、積極的に中学校との交流を実施し、昨年を上回る本校志願者を確保する。
環境安全部	安全安心な教育環境の整備	安全点検表の効率的な活用、校内各所の環境の把握、修理スキルの向上、事務室・業務員室との連携の強化などを行うことで、人間関係（いじめ、友人関係）や教室環境に関するアンケートにおいて、肯定的な回答70%以上を目標とする。
	地域社会に貢献する人材の育成	校内美化を自律的にできる生徒を育成するために環境安全部員による清掃箇所等の点検や清掃・作業等を見せることで生徒に手本を示すとともに、環境安全委員の生徒からクラスに発信できるように委員会活動を行う。また、清掃時の生徒に励ましの言葉などをかけることにより、生徒のやる気を引し、ボランティア活動や清掃活動などに関するアンケートにおいて、肯定的な回答70%以上を目標とする。
文化図書部	主体的・対話的で深い学びの実現	「朝の読書」週間を利用し、生徒の読書習慣の定着を図る。さらに図書委員が読書活動推進の中核的存在として「POP」や「図書室便り」を作成し、読書の楽しさや大切さを学校全体に発信することで、生徒へのアンケート調査の結果、「朝の読書」をやって良かったと思えた生徒を90%以上にする。 雑誌や生徒にとって身近な著名人が書いた書籍を取り揃え、自らの人生のヒントを見いだすことで、生き生きした学校生活を送る支援をする。 県高文連等が募集する大会テーマ標語やポスター等にも積極的に応募することにより、生徒の言語活動から文化的な意識向上に努める。 生徒が自らの進路を考える参考になるような、職業や学問に関する書籍を充実させる。 以上のことを通して、生徒の授業への取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答を90%以上とする。
生徒会指導部	魅力と活力あるこれからの高校づくり	部活動紹介や部活動体験を活発に行うことで、部活動加入率を2月末段階において85%以上（昨年度2月：86.4%）を継続できるようにする。また、昨年度は1年間で加入率が3.5%減少した。今年度は3.0%までに抑えたい。 また、生徒会活動を活発化させ、全校生徒が生徒会活動に携われるようにしていく。そうすることで科やコースにおける特色ある教育活動に関するアンケートにおいて、肯定的回答を90%以上にする。
	地域との連携・協働推進	ミュニティスクールへの移行を目指し、幼稚園、小学校と連携した取り組みを年に1～2回実施する。家庭クラブと幼稚園の連携、生徒会と幼稚園の連携、SS科と小学校の連携（昨年度4回）を昨年以上に実施する。
管理職	教職員の資質向上	授業における満足度に関するアンケートにおいて、教員が自らの授業等を見つめ直し、改善できるように支援する。また、教科内及び教科を横断した研究授業を5年間ですべての教員が行うとともに、スキルアップを図るために70%以上の教員が長期休業期間等を利用して積極的に教育研究所等が主催する研修会等を受講する。
	魅力と活力あるこれからの高校づくり	学校体育と社会体育の連携拠点として各競技団体の活動を積極的に誘致し、奈良県スポーツコミュニティの設立とコミュニティ設立後の連携に向け、奈良県スポーツ界に新たなモデルを提唱する。
	学校における働き方改革	業務量の平準化を意識するとともに、個々の適性等を考慮して校務分掌等を編成する。また、「働き方改革」の観点を踏まえた人事評価と自己申告評価シートを活用した自己点検を推進する。さらに各教職員が週に1度、定時退校日を設定することで超過勤務時間平均の引き下げを図り、教職員のストレスチェックにおける「総合健康リスク」の80以下を目指す。
	グローバル人材の育成	ALTとの交流会等への積極的な参加を促すことで、外国語に対する興味・関心を高めるとともに、実用英語技能検定やTOEIC等の検定試験の受験者数を増加させ、海外留学や国際交流への意欲を高める。